

紀要の刊行にあたり

学 長 矢 川 寛 一

岩手女子看護短期大学は、平成2年、東北に唯一の私立の看護短期大学として注目を浴びて設立されました。開学当初は講義、実習をはじめとする教育態勢の基礎づくりに、己を省みるいとまもなく無我夢中で頑張ってきました。このような厳しい条件のもとで、先に岩手女子看護短期大学研究集が発刊されましたが、ここに改めて紀要の刊行をみたことは、まことによろこばしいことでもあります。

いうまでもなく、大学は教育と研究が両立しなければなりません。紀要は、大学における研究業績が記録されるものであって、紀要の充実は大学の発展につらなるものであり、大学評価の指標の一つであります。したがって、紀要の刊行は大学人の重要な務めといってよいと思います。

紀要の刊行により優秀な研究業績の生まれてくることを信じてますが、研究理念の背景に人間と人間の関りを基盤とする看護の心の存在も忘れてはならないと考えます。謙虚に、心を通した科学こそ真の科学といわれています。

本紀要が、岩手女子看護短期大学の発展、看護の進歩、看護学の確立に寄与するとともに、その研究成果が教育の場に投影されて魅力ある講義、実習に役立ち、有為な看護者が育っていくことを心から期待します。

本紀要の刊行にあたり、多忙な教育業務のなかで努力された編集委員の苦労に心から敬意と感謝を表します。